

# 金融取引における約款等をめぐる法的諸問題

2015年12月

金 融 法 務 研 究 会

# はしがき

本報告書は、金融法務研究会第2分科会における平成22年度の研究の内容を取りまとめたものである。

金融法務研究会は、平成2年10月の発足以来、最初のテーマとして、各国の銀行取引約款の検討を取り上げ、その成果を平成8年2月に「各国銀行取引約款の検討—そのⅠ・各種約款の内容と解説」として、また平成11年3月に、「各国銀行取引約款の比較—各国銀行取引約款の検討 そのⅡ」として発表した。平成11年1月以降は、金融法務研究会を第1分科会と第2分科会とに分けて研究を続けている。

第2分科会で取り上げたテーマは、巻末の報告書一覧のとおりであるが、平成22年度は「金融取引における約款等をめぐる法的諸問題」をテーマとして取り上げ、検討を行った。研究当時、法制審議会民法（債権関係）部会において、約款について審議がなされており、本報告書は、そうした審議状況を踏まえた当時の研究会委員の報告資料をもとに取りまとめたものである。

本報告書では、第1章で「約款の定義」（中田裕康担当）、第2章で「約款の『組入れ』、『開示』」（沖野眞巳担当）、第3章で「約款の変更（総論）」（野村豊弘担当）、第4章で「具体的ケースを素材とした約款変更の検討」（山田誠一担当）、第5章で「団体による標準契約書等の作成」（森下哲朗担当）、第6章で「商品の観点から見た約款の問題」（山下純司担当）を取り上げている。

このうち第1章では、約款の概念の多様性を踏まえ、約款の諸定義を検討し概念の明確化を図りつつ、約款に関する立法を行う場合の定義のあり方について検討する。第2章では、約款の「組入れ」・「開示」について、法制審議会民法（債権関係）部会における議論および従来の判例・学説を踏まえ、開示等における具体的な課題を整理・検討する。第3章では約款による契約とよらない契約における契約条項変更時の取扱いの比較、特に約款による契約の変更条項の有効性に係る解釈の厳格性を検討する。第4章では、預金規定等の変更または条項追加の具体的なケースを取り上げ、約款変更を検討する。第5章では、金融取引に関する標準契約書や約款等の作成に携わっている団体における当該作成状況を概観したうえで、団体が作成することの意義や法的問題を検討する。第6章では、保険および信託の約款の構成・位置づけ、契約締結・変更時の論点を整理しながら、預金約款・債権法改正との関係を指摘する。

本報告書が銀行実務家をはじめ、各方面の方々のお役に立つことができれば幸いである。

なお、本研究会には、銀行の法務分野から実務を担当する方にオブザーバーとしてご参加いただいている。また、事務局を全国銀行協会業務部をお願いしている。

最後に、同分科会では、平成27年度には「民法（債権関係）改正に伴う金融実務における法的課題」をテーマとして取り上げ、研究を続けている。

平成27年12月

金融法務研究会座長

岩原紳作

# 目 次

第1章 約款の定義（中田裕康）	1
1 はじめに	1
2 約款の概念の機能	2
(1) 約款論の展開	2
(2) 約款の概念の諸機能	6
(3) 小括	10
3 約款の諸定義と具体例	10
(1) 各種の定義	10
(2) 具体例の検討——モデル契約条項	14
4 立法における約款の定義	16
第2章 約款の「組入れ」、「開示」（沖野眞已）	19
1 債権法改正における検討状況	19
(1) 民法（債権関係）部会における問題提起	19
(2) 先行する立法提案	20
(3) 部会での審議状況	22
2 従来判例・学説	24
(1) 判例	24
(2) 学説	26
3 検討	32
(1) 「開示」の位置づけ、基本となる一般契約法の考え方	33
(2) 約款の場合	34
(3) 「開示」をめぐるその他の問題	38
(4) その他	42
4 銀行取引における約款の「組入れ」、特に開示	43
5 その他（雑）	43
第3章 約款の変更（総論）（野村豊弘）	48
1 はじめに	48
(1) 約款による契約と約款によらない契約	48

(2) 「変更」の意味 .....	48
(3) 銀行取引における変更条項の具体的事例 .....	49
2 約款の変更に関する学説 .....	50
3 約款の変更に関する裁判例 .....	51
(1) ダイヤルQ 2事件 .....	51
(2) 神戸地判昭和62・2・24判タ657号204頁 .....	51
(3) 東京高判昭和48・6・25判時710号59頁 .....	52
(4) 最判昭和45・12・24民集24巻13号2187頁 .....	52
(5) 主催旅行における旅行内容の変更が債務不履行にあたるか .....	52
4 約款に含まれる変更条項と不当条項の判断基準 .....	53
(1) ドイツ法 .....	53
(2) フランス法 .....	53
(3) 日本法 .....	56
5 問題検討の視点 .....	58
(1) 契約の種類 .....	58
(2) 変更の対象 .....	58
(3) 変更の内容（方法） .....	59
(4) 変更内容の通知方法 .....	60
(5) 変更の効力発生時期 .....	60
<b>第4章 具体的ケースを素材とした約款変更の検討（山田誠一） .....</b>	<b>63</b>
1 はじめに .....	63
2 約款変更の具体的なケースの検討 .....	63
(1) 預金者からの相殺に関する規定の追加（各種の預金規定） .....	63
(2) 口座の強制解約に関する規定の追加（普通預金規定） .....	67
(3) 偽造変造カードによる払戻し（カード規定試案） .....	69
(4) 預金等の不正な払戻し（普通預金規定） .....	71
(5) 暴力団排除条項の追加（普通預金規定、貸金庫規定） .....	73
3 関連するその他のケース .....	75
4 暫定的なむすび .....	75

第5章 団体による標準契約書等の作成（森下哲朗）	79
1 団体による標準契約書等の作成の状況	79
(1) 各種の団体	79
(2) 取決めの形態	84
(3) 作成の背景・意義	86
2 団体による取決めのメリット・デメリット	89
(1) メリット	89
(2) デメリット	93
(3) 小括	94
3 団体による取決めに関する幾つかの法的視点	94
(1) 約款規制	95
(2) 独占禁止法	95
4 より良いひな型・標準契約書のために	96
第6章 商品の観点から見た約款の問題（山下純司）	99
1 問題状況	99
2 保険	99
(1) 約款の構成、位置づけ	99
(2) 契約締結と約款	100
(3) 契約変更と約款	103
3 信託	103
(1) 約款の構成、位置づけ	103
(2) 契約締結と約款	105
(3) 契約変更と約款	107
4 付記	108
(1) 預金約款との関係	108
(2) 債権法改正との関係	109
(3) まとめ	109
（参考） 金融法務研究会第2分科会の開催および検討事項	110